



協力 省心会
http://shosin-kai.com/

音楽劇 菜時記

アンティーク着物で歌う

心温まる
「菜・sai」の
物語とともに――

――島崎藤村の詩を
歌にのせて。

菜・源川瑠々子



菜 Complete Box I



©わたせせいぞう
出版社：玄光社

『菜——sai——』
復刻版発売記念公演

【原作】
わたせせいぞう
『菜-sai-』

【詩】
島崎藤村『藤村詩集』

【作】
スミダガワミドリ

【音楽・演出】
神尾憲一

2025年9月30日(火) 13:00開場
13:30開演

前売り開始：8月9日(土) ご観劇料：5,000円 税込/全席指定
未就学児童入場不可

先行チケット予約 7月26日(土) <https://w.pia.jp/t/saijiki/>

チケット取扱 チケットぴあ Pコード：535643
カンフェティ

会場 すみだトリフォニーホール 小ホール

お問合せ FC事務局 TEL03-5822-0318



先行予約QR

すみだトリフォニーホール
東京都墨田区錦糸1-2-3



©わたせせいぞう

音楽劇「菜 時記」について

菜の暮らしは、日本の四季と共にある。菜は、亡き母の着物を着こなし、母の教えを大切にしている。とは言え亭主の耕平は、大学助教授で生活は苦しい。耕平は、やさしい人柄で学生にも人気だが、お酒が大好きで女にはからきし弱い性格。さらに正義感があだになっての派閥トラブル。家ではあまり外のことを話さない耕平だが、菜はそれを感じ取り陰ながら献身的に支えている。しかしだからと言って、菜が見て見ぬふりをしている訳では無い。理解できない事(浮気?)には大いに怒る(口を聞かない)。そんな夫婦を愛してやまない周囲の人々がいる。さてこの作品は、「菜-sai-」のエピソードを、主演の源川瑠々子が紹介しながら菜を演じ藤村を歌う。「菜の日常」と「藤村の詩」を通して、日本人が昔から大切にしてきた和の心と日本の情景を楽しんで頂きたい。

音楽・演出 神尾憲一

「菜」とは…

1989年「ハートカクテル」で一世を風靡した、わたせせいぞう氏による作品。1992年から1998年まで「週刊モーニング」(講談社)にて連載された、人気漫画。2007年には、続編である「菜～ふたたび～」を連載。

原作「菜-sai-」について

富田耕平・菜夫妻を主人公に、四季に彩られた日本の美しい風物をちりばめながら、家族の折々の情景を鮮やかに描き出す。大勢の家族に囲まれ、にぎやかに育った耕平と、両親に先立たれ、その思い出を刻む家に暮らしてきた孤独な菜。対照的なふたりが夫婦として結ばれ、新しい、愛情に満ちた家庭を営んでいく。
(「菜-sai-」単行本より)

楽曲について

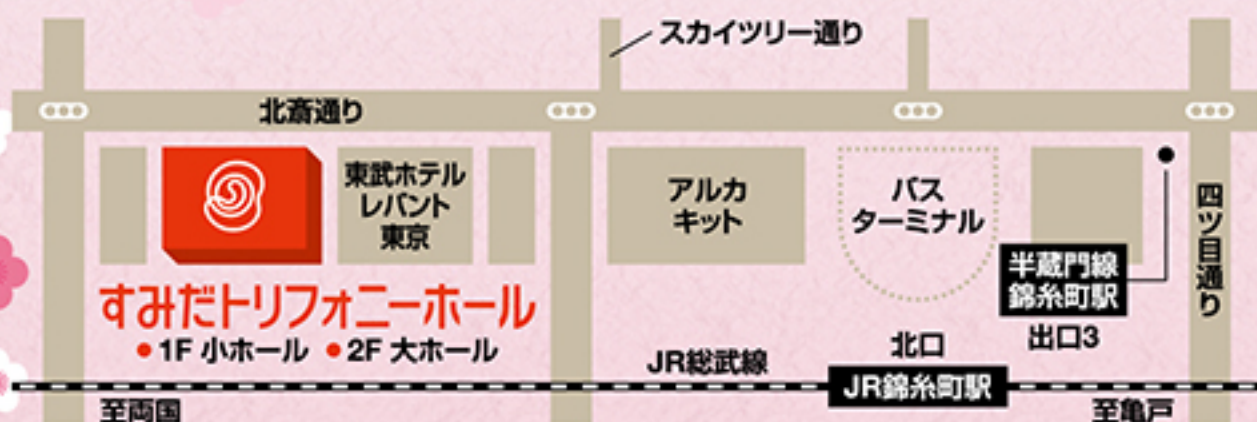
美しい日本語として、その真価が改めて日本人の心をとらえている島崎藤村の詩。「まだあけ初めし前髪の…」で始まる「初恋」(詩集「若菜集」)は、こども番組でも取り上げられる程。作曲家・神尾憲一も、そんな藤村のことばの魅力に取りつかれたひとりであり、藤村の「ことば」そのものがメロディーを生む、と数々の詩を楽曲化。源川瑠々子が、その鈴の鳴るような凛とした声で、歌う。2008年「アンティーク着物で歌う藤村の初恋」と題し、島崎藤村ゆかりの地である長野県各所、東京は三越劇場でリサイタルを行い、好評を博す。



チケット先行予約 7月26日(土)から
チケット一般発売日 8月9日(土)から
良いお席はお早にお求めください

「菜時記」公式サイト <https://maruru.tokyo/saijiki/>

アクセス



東京都墨田区錦糸1-2-3

★JR総武線「錦糸町駅」北口より徒歩5分

★東京メトロ半蔵門線「錦糸町駅」3番出口より徒歩5分

★都営バス「錦糸町駅」下車 徒歩5分

スタッフ

[原作] わたせせいぞう「菜-sai-」／島崎藤村詩集

[脚色] スミダガワミドリ [音楽・演出] 神尾憲一 [振付] 源川瑠々子 [音響] 山崎修治

[写真] 殿村忠博 [ヘアメイク] 渡邊栄子 [着付] 須田久美子 [デザイン] アロワナ(株) [制作] 飯村育代

[主催] (有)ライトリンク・ミュージック [協賛] 和のまる／ブルーレディオ・ドットコム [後援] アロワナ株式会社

[協力] 株式会社 アップルファーム／一般社団法人 省心会

【お問合せ先】 まるる事務局 ☎ 03-5822-0318 (受付 10:00～20:00)

音楽劇
菜時記
アンティーク着物で歌う

みながわるるこ
菜/源川瑠々子

